

# 取組事例 子どもにやさしいまちづくり事業実践自治体としての各種取組 (安平町)

安平町では、子どもたちの「遊び」「学び」「挑戦」をサポートする安平町独自の教育プラン「あびら教育プラン」を継続的に実施するほか、令和5年度の早来学園開校に向けた各種会議やアンケートの実施など、CFCIの理念に基づき子どもの意見を多く取り入れながら新たな子育て・教育環境の構築を進めている。

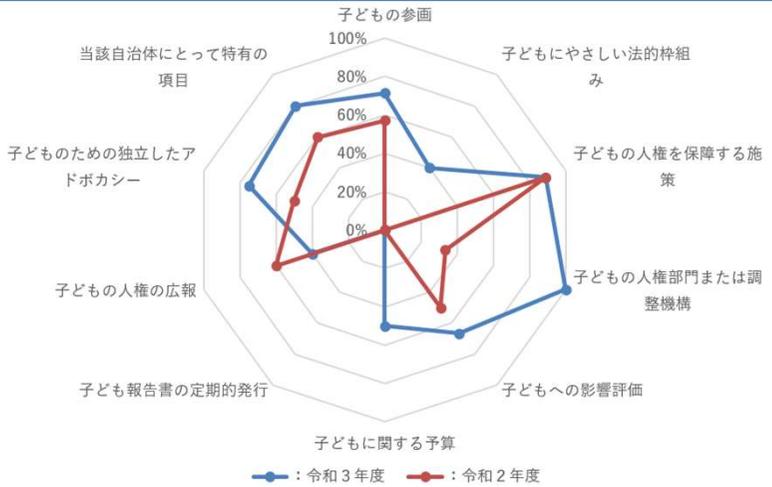
## 関連数値目標・KPI

区分	基準値 (R元)	実績 (R3)	目標値 (R7)	進捗率 (%)
小学校児童の維持・向上	49人	44人	60人	73.3%
中学校生徒の維持・向上	56人	51人	60人	85.0%

## 取組の推進体制

ユニセフの定める「日本型子どもにやさしいまち（CFC）モデル構成要素10項目のチェックリスト」に基づき、行政上の子どもにやさしい法的枠組みや子どもの人権を保障する施策の実施状況などについて毎年度評価を行い、着実に取組を推進。

## 日本型子どもにやさしいまち(CFC)モデルチェックリストの状況



令和2年度から子どもにやさしいまちへと改善傾向にある。

## 取組事例 新たな子育て・教育環境の構築

### 子どもの権利や社会参画を推進

- 主な取組
  - ・あびら教育プランの取組みにおいて、子どもの発想や意見を具現化するなど、子どもの社会参画のサポートを実施している。
  - ・平成30年北海道胆振東部地震により被災した早来中学校を、小中一貫の義務教育学校として再建する計画を進める中で、学校名や制服のデザイン等について、子どもたちの意見を聴く機会を設け、そこで出された意見を取り入れている。



早来学園建設現場を見学する小学生



- 主な成果
  - ・ユニセフ日本型「子どもにやさしいまちづくり事業」の実践自治体として正式に承認
  - ・「子どもに意見を聴く」という認識が職員間でマインドセットされつつある
  - ・CFCIの取組みが安平町のオリジナリティとして町のPRにも寄与